

Web 記事の信憑性評価における 判断箇所の調査システムの検討

Exploring Survey Systems for Assessing Credibility Judgments in Web Article Evaluation

館 秀典, 竹内 俊彦

Hidenori TACHI, Toshihiko TAKEUCHI

駿河台大学 メディア情報学部

Faculty of Media and Information Recourses, Surugadai University

駿河台大学 メディア情報学部

Email: tachi.hidenori@surugadai.ac.jp

あらまし：本稿では、生成 AI の技術の発達により、本物と見紛うようなフェイクニュースについて、どの点が疑わしいかをユーザに指摘させる教材開発の計画について述べる。過去に作成した、動画に対してのアノテーションシステムを、実験記事を静止画として作成、指定時間提示し、時間が経過すると次の記事画像に変えることで、気づきの箇所の流れとコメントを取得するシステムである。各人の気づきを可視化することでディスカッションなどに利用することを想定している。

キーワード：生成 AI, Web 教材, 教材開発, フェイクニュース, 気づき

1. はじめに

近年の生成 AI 技術の発達により、誰もが簡単な操作で本物と見紛う写真や動画、文章を生成できる時代となった。既にソーシャルメディア、Web などにおいて AI 技術を用いて生成された情報が多く掲載されており、社会的にも影響を及ぼしている。

これらのコンテンツに対し、サービス事業者は社会から対応を迫られており、目視によるフィルタリングや AI を利用したフィルタリングによって問題のある広告や投稿を削除する対策を進めている。しかし日本においても有名人の写真を無断で利用した投資広告やセミナーの勧誘などが後を絶たず、無断で写真を利用された本人が、フェイク記事の対策をサービス事業者に求めるとともに、社会に啓発することを目的とした裁判を起こした例もある。これらのフェイクニュースやフェイク記事の蔓延は、個人や社会全体に深刻な影響を及ぼしている。詐欺被害に遭った被害者の供述では、有名な新聞会社の記事と同じデザインで作られており、経済界でも著名な人の対談記事であったため信じてしまったとのことである。

これらの事例のように、意図的に人を貶めることを目的とした記事だけでなく、今後 AI が生成するニュース記事も増えると予想される。情報の信憑性を判断する能力が一層必要となってくる。既に生成 AI を活用したフェイクニュースも SNS 等において多く目にするようになった。これらが蔓延すると、複数の情報源で同様の記事を目にすることも増える。メディアリテラシーと批判的思考力を高め、情報の信憑性を判断する能力の向上が必要とされる。筆者らは、情報の受け手がどのようにニュース記事を読み、どの点に着目し、どのような疑問を抱いたかを取得し分析を行うことで、情報判断におけるメディ

アリテラシーを向上させるための教材開発と評価を行なっている。

2. 研究の目的, 方法

本研究では、情報活用におけるメディアリテラシー教育の質の向上を目的とする一環として、情報の受け手がニュース記事の、どの点に着目し、どのような疑問を抱いたかを取得するためのツールを検討、開発する。

Web の可読性や視線移動の調査には、アイトラッキングなどのツールを用いてデータを取得する方法がとられているが、本研究で得たいデータには、記事のどの箇所に対して、どのような疑問を抱いたのかという 2 点が必要となる。そのため、アノテーションを付与したタイミングと場所を取得するため、筆者が 2017 年に作成した動画アノテーションシステムをもとに改良を行う。

これまでに開発したシステム (館ら, 2017) は、スマートフォンまたは PC から動画を視聴し、視聴中に気になる箇所をクリックまたはタッチすると、その場所に赤丸が表示されコメントの入力が促される。コメントを入力し、OK をクリックすると続きが再生される。保存されるデータは時間と動画中のアノテーションの場所、コメントの 3 点であり、グループワークまたは一斉授業等において、各人の気づきの場所や時間を一覧、比較できるシステムであった。

本研究に必要な機能は以下の 4 点である。

1. Web のニュース記事と類似したフォーマットでのコンテンツの提示
2. 記事中のどの場所が気になったのかアノテーションの記録
3. 上記 2 の場所に対するコメントの記録
4. 記事の提示時間の制限

そのため、これまでのシステムでは動画に対してのアノテーションシステムであったものを、実験記事を静止画として作成、指定時間提示し、時間が経過すると次の記事画像に変えることで、気づきの箇所の流れとコメントを取得する。

利用に際しては、下記の流れとなる

1. PC またはスマートフォンから実験用の Web ページを開き指示に従いスタートすると課題記事が表示される。(図 1)
2. 記事に目を通し、気になる点があればその場で該当箇所をタップまたはクリックする。
3. タップされた箇所が赤丸で表示され、コメントの入力が求められる。(図 2)
4. コメントを入力し、OK を押す。
5. 2~4 を、1 つの記事の提示時間繰り返す。
6. 指定時間が経過すると次の記事が提示される。グループワークでは、全員の気づきの点を一覧しディスカッションすることもできる。(図 3)

3. まとめと課題

本研究では、情報の受け手がニュース記事のどの点に着目し、どのような疑問を抱いたかを取得し、分析を行うためのツールの検討と開発を行った。

筆者らがこれまでに開発した動画アノテーションシステムを改良することで、目的のデータを取得できることが明らかとなった。しかし、データの取得



図 1 記事の提示

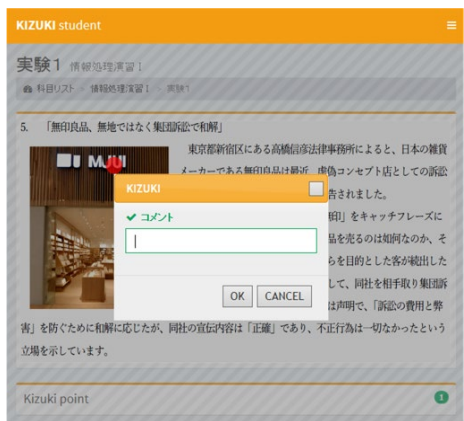


図 2 気づきの箇所、コメントの入力

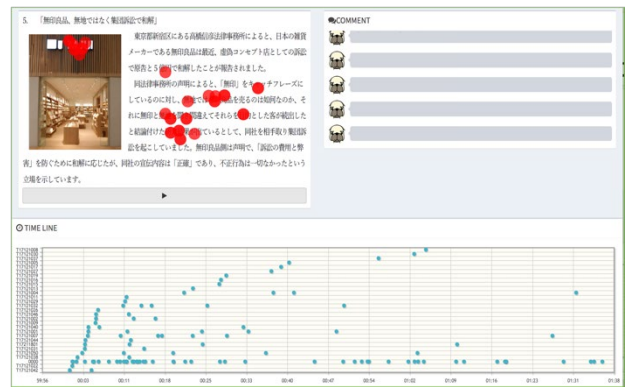


図 3 時系列と比較

に際し、記事をどのような順序で読み進めるのかは本システムでは得ることができない。この課題の解決には、アイトラッキング等、既存システムとの連携が必要となる。

生成 AI の技術の発達により必要となる情報の信憑性の判断に際し、今後、本システムを利用した実験を通して分析を行なう予定である。

参考文献

- (1) 岩橋 瑠伊, 矢吹 太郎:“SNS においてフェイクニュースを拡散するユーザーの特徴抽出”, 第 80 回全国大会講演論文集, pp.113-114 (2018)
- (2) 大島 裕明, 山本 祐輔, 山家 雄介, 高橋 良平, ヤトフト アダム, 中村 聡史, 田中 克己:“Web 情報の信憑性(<特集>情報の信頼性)”, 情報の科学と技術, 61 巻, 1 号, p. 2-7 (2011)
- (3) 一森 湧, 加納 寛子:“フェイクニュースに対する学生の認識”, 情報教育, 1 巻, pp. 59-61 (2019)
- (4) 河井 孝仁, 藤代 裕之:“東日本大震災の災害情報における Twitter の利用分析”, 広報研究, 日本広報学会 pp.118-128 (2013)
- (5) 木村 千夏:“大学生にインターネットニュースの発信者を意識させる授業デザインとその評価”, 日本教育工学会論文誌, 44 巻, 2 号, pp. 253-264 (2020)
- (6) 佐藤 真大, 榊原 範久:“Web 情報に対する評価を用いてメディアリテラシーを育成する学習教材の開発と評価”, 日本教育工学会論文誌, 46 巻, 2 号, pp. 325-337 (2022)
- (7) 佐藤 翔, 楠本 千紘, 服部 亮, 大菅 真季, 浅井 理沙, 河野 真央, 久山 寮納:“日本の大学生は情報源が Wikipedia 日本語版である情報の信憑性を他のオンライン百科事典である情報よりも低く判断する”, 情報知識学会誌, 28 巻, 3 号, pp. 223-252 (2018)
- (8) 館 秀典, 加藤由樹, 加藤尚吾, 竹内俊彦:“Web 情報の信憑性の判断に環境要因が及ぼす影響について”, 信学技報, vol. 122, no. 303, ET2022-42, pp. 13-16. (2022)
- (9) 館 秀典, 立野 貴之, 矢野景子:“気づきに着目した保育士養成の学習支援システムの開発と学習者からの評価”, 教育システム情報学会全国大会講演論文集, pp.47-48 (2017)
- (10) 田中 克己, 山本 祐輔:“2. 情報メディアとその信憑性”, 映像情報メディア学会誌, 66 巻, 11 号, pp. 891-895 (2012)